

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.4.5 No. 132 連絡先 FAX 042-555-1911



2012. 3. 26 航空総隊司令部等運用開始 第5ゲートに航空自衛隊の看板



航空自衛隊のマーク

3月26日の航空自衛隊運用開始に向けて、第5ゲートの右側に、航空自衛隊のシンボルマークのある看板が完成しました。左側は、米空軍のシンボルマークの看板です(第2ゲートの看板にある U. S. AIR FORCE はない)。看板の文字は、左も右も「Yokota Air Base」「横田基地」と同じ。「航空自衛隊と書いてないと分からない」というのが実感ですが、外から見える大きな変化です。

米軍との防空・弾道ミサイル防衛の情報共有・連携強化を目的に横田へ

3月26日、横田基地での式典は、司令官らのスピーチや、バートン・フィールド第5空軍司令官、ウィリアム・ナイト第374輸送航空団司令、斉藤治和航空総隊司令官、日吉章夫防空指揮群司令によるテープカットが行われ、地下室も一部公開、と報道されています。(右写真：米軍横田基地ホームページより)



斉藤治和航空総隊司令官は「航空総隊司令部が横田基地に移転したことの大きな意義は、防空及び弾道ミサイル防衛に関し、米空軍第5及び第13空軍司令部との間で日々の途切れることのない、Face to Face (差し向かい)での連携の強化や日米のより実効性ある抑止力及び対処力の向上に資することができるというものであり、安全保障上、極めて重要な意味を持つと考えております。」と挨拶しました。

米軍再編で自衛隊は、米軍主導のもと実戦に参画する危険が。戦争への道はストップを！

600億円の税金が 航空自衛隊横田基地の新設に湯水のように使われた！

各年度の金額は、防衛省の当初予算額。他に2006年度、補正で設計費1億円が計上。内訳は概算数字。

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	計
航空総隊司令部等	143億円	47億円	122億円	15億円	3億円	3億円	333億円
既存米軍施設の移設		22億円	47億円	11億円	21億円	15億円	116億円
公務員宿舍整備		28億円	19億円				47億円
通信機器、装備品等		39億円	21億円	30億円	12億円	1億円	103億円
年度ごとの金額	143億円	136億円	209億円	56億円	36億円	19億円	599億円

横田基地 米陸軍100名のパラシュート降下訓練は、通常の訓練なのか！

横田基地で、新年早々の1月10日にアメリカ本土の陸軍部隊100名によるパラシュート降下訓練が行われ、11日、12日にも行われました。

その後、この問題を地元議会などで質問したところ、「通常の基地内の訓練で把握していない。分からない。」とか「通常の訓練だ。」「空軍の訓練だ」などと回答しています。明らかにごまかしです。通常の訓練で問題なしとし、これからも訓練を認めていこうという姿勢は大問題です。

嘉手納基地のパラシュート降下訓練 周辺自治体は強く抗議

沖縄の嘉手納基地で昨年、2度のパラシュート降下訓練が行われました。

2月16日…「米空軍嘉手納基地の第18空挺団と第353特殊作戦群は、県や周辺自治体等のたび重なる中止要請や抗議にもかかわらず、住宅が周辺に密集する同基地で、2007年10月以来、4年ぶり、復帰後5度目のパラシュート降下訓練を強行した。」(沖縄市議会の抗議決議より)

5月20日…「嘉手納基地内で、嘉手納基地所属の第31救難中隊と第320特殊戦術中隊が、事前通告なくパラシュート降下訓練を強行した。米軍普天間飛行場から飛来した海兵隊のCH46中型輸送ヘリから、兵士27人が相次いで飛び降り、北側滑走路付近に降下した。」(北谷町議会・抗議決議)

抗議決議では、過去に読谷村で何度も事故が起きたこと、「例外的」や「運用上の理由」を盾にしてパラシュート降下訓練を当然の如く恒常化することは到底容認できない等、抗議しています。

隆子ちゃん事件ーパラシュートのトレーラー投下で少女が圧殺されたー

1965年6月、読谷村の棚原隆子ちゃん(10歳)が米軍機から投下されたトレーラーの下敷きになり死亡しました。

1960年から、読谷飛行場をターゲットエリアとした米軍空挺訓練(パラシュートによる物資投下訓練)が実施されるようになり、基地被害が続発し、ついに死者を出したのです。自宅近くで隆子ちゃんが圧殺された事件は、県民に大きな衝撃を与え、村民を中心に激しい抗議が行われました。

(写真提供：沖縄県読谷村・読谷村史編集室)



この下にはまだ少女が…

空から「トレーラー」「鉄魂」「兵士」が落ちてくる パラシュート訓練の恐怖

読谷補助飛行場のパラシュート降下演習で、多くの事件・事故が発生していました。

1965年6月、隆子ちゃん事件。1966年11月、角材が民家の屋根をぶち抜き床上に激突。1979年11月、7kgの鉄魂のおもりをつけたパラシュートが民家から13mの所に落下。1981年4月、演習場から大きくはずれ、小学校の朝礼中の生徒の頭をかすめ黙認耕作地に米兵が落下。1992年12月、民家の庭先に米兵が落下。1993年11月、提供施設内の通勤通学路に米兵が落下しました。

このように読谷村が調査したものだけで30件以上の事件・事故が発生していました。

パラシュート降下演習抗議行動は 読谷飛行場を村民の手に取り戻した

1979年、村内16団体でパラシュート降下演習に反対する実行委員会を結成。村民総ぐるみの長い(20年)闘いを経て、1996年7月以降訓練は行われなくなり、読谷飛行場を村民の手に取りもどしました。1979年の調査以降18年間で、訓練実施回数186回、降下人員6,877人でした。